



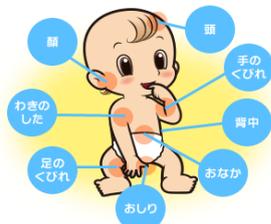
2025年7月31日
ハレルヤ保育園
保健衛生

夏は子どもたちの活動量が多くなり、元気に遊ぶことができる季節です。思う存分、遊ばせてあげたいのですが、思いがけず熱中症になったり、皮膚のトラブルを起こしたりしがちです。休憩を取りながら活動する、食事はきちんと取る、夜は入浴したうえでしっかり休むなど、規則正しい生活にも気を付けましょう。



夏の感染症と 皮膚トラブル

夏は、手足口病やプール熱などのウイルス性の感染症やあせもと言った皮膚トラブルも多くなる季節です。夏の感染症や皮膚トラブルの症状や家庭での対応についてご紹介します。

<p>ヘルパンギーナ</p> 	<p>症状：突然 38~40℃の高熱が 2~3 日続き、のどの奥に小さな水ぼうがができます。のどの痛みをうまく伝えられない乳幼児はよだれが増え、食欲が落ちて、不機嫌になることがあります。</p> <p>対応：のどを痛がる時は、のどごしの良い流動食を与えます。熱と口の中の痛みがなくなり、飲食ができるまで数日休ませます。登園届が必要です</p> <p>※ハレルヤ保育園では7月にヘルパンギーナの報告が5件ありました※</p>	
<p>とびひ（伝染性膿痂疹）</p> <p>症状：虫刺されやあせもをかいた傷から黄色ぶどう球菌などが入り、水ぼうがかさぶたができます。かゆみがあり、かき壊すと体のあちこちにうつります。</p>		<p>対応：患部を清潔にして、抗菌剤を含んだ軟膏をぬります。水疱があれば受診し、広がる時は抗生物質を内服します。ガーゼで覆えば登園可能ですが、広範囲なら登園禁止になることもあります。爪を短くし、治るまでプールは控えます。</p>
<p>水いぼ</p> <p>症状：伝染性軟属腫ウイルスにより、全身に 1~5mmの白く水っぽい光沢のあるいぼができます。かくと、広がったり、とびひになったりすることもあります。</p>		<p>対応：自然に消えますが、時間がかかります。数が多い、皮膚がただれると、かき壊す場合は、受診します。プールでの感染は少ないですが、タオルやビート板を介してうつることがあるので、共有は避けます。</p>
<p>あせも（汗疹）</p> <p>汗を出す汗管があかや汚れでふさがって、汗の出口がなくなり、首や背中、お腹などに、水ぼうや、炎症が出ます。炎症は、かゆみを伴います。</p>	<p>あせものできやすいところ</p> 	<p>対応：水ぼうは、汗を拭いて清潔にすれば 1~2 日で治ります。炎症が強い場合は、亜鉛華軟膏などを使い、2~3 日以上続く時は皮膚科を受診しましょう。汗はこまめに拭き、着替えをすることが予防になります。</p>

とびひの受け入れについてご案内

登園の目安：傷が完全にガーゼで覆える状態であること。登園する場合には、個人で使用するガーゼ、絆創膏、包帯などをご持参ください。接触感染のため汁が出て傷がジクジクしている状態や、ガーゼで覆うのが難しい場合などは無理をせず、ご家庭でゆっくり過ごされることをお勧めします。感染力が強いため、他のお子様への感染防止のためにも皆様のご理解とご協力をお願い致します。受け入れ時は登園届が必要になります。

7月の感染症報告 8件	
ヘルパンギーナ	5名
とびひ	1名
溶連菌感染症	2名